

「子宮頸がん検診にH P V検査を追加しませんか？」

《細胞診検査》

一般に子宮頸がん検査と呼ばれている検査が、細胞診です。

子宮頸部から採取した細胞の「形」を顕微鏡で調べます。

がん細胞や異形成の細胞は、健康な細胞と形が異なるため、この方法でがんや前がん病変を発見することができます。

※当院ではがん細胞を顕微鏡で調べる細胞診検査をサーベックスブラシを用いた精度の高い液状細胞診（L B C法）を導入しております

L B C法とは？(下記リンク参照)

<http://www.chanto-chanto.com/shikyukeigan/kensa/kensa-01-03.html>

《H P V検査》

H P Vとは…ヒトパピローマウイルス（HPV）は皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100種類以上のタイプがあります。このうちの約 15 種類は子宮頸がん（しきゅうけいがん）の原因となることが多いため、発がん性 HPV と呼ばれています。中でも、HPV 16 型と HPV 18 型と呼ばれる 2 種類は、子宮頸がんを発症している 20～30 代の女性の約 70～80%から見つかっています。

H P V検査は細胞の中からH P Vの遺伝子を検出する検査です。

H P Vにはローリスク型とハイリスク型があり、ハイリスク型H P Vの感染が長期滞在したとき、子宮頸がんになる可能性が出てきます。

子宮頸がんになるまでには、通常、数年～十数年と長い時間がかかるので、定期的な子宮頸がん検診を受けていれば、がんになる前の状態（前がん病変）を発見し、治療することが可能です。

《併用検査》

HPV 検査は、がんの原因ウイルスを持っているかどうかを調べる検査で、細胞診は、がんを疑う異常な形の細胞の有無を調べる検査です。

細胞診検査の残りの細胞を使ってH P V検査が可能です。

細胞診だけでは、子宮頸部に病変（CIN2/3 またはがん）がある女性を 2～3 割見逃すといわれていますが、HPV 検査と細胞診を併用することによって、見逃しがほぼゼロになります。とくに、HPV 陰性で細胞診も正常の場合は、子宮頸がんにかかるリスクが数年間はほとんどないことを確認することができます。

HPV 陽性または細胞診が異常の場合は、治療の必要がある異常な細胞の有無を確認するために、必要に応じて精密検査を行います。

	検査の対象	検査方法
細胞診	がんを疑う異常な形の細胞	子宮頸部から採取した検体を、細胞検査士が顕微鏡で調べ、異常があれば専門医が診断する。
HPV 検査	子宮頸がんの原因ウイルス	子宮頸部から採取した検体を、DNA 検査技術を用いた診断薬を使って検査室で調べる

☆HPV検査をご希望の方は通常の細胞診に5400円追加で受けていただくことができます。1度の採取で両方の検査ができます。